

12月18日

3回目の一般質問一問一答+まとめ

県の元気づくり支援
金について-1

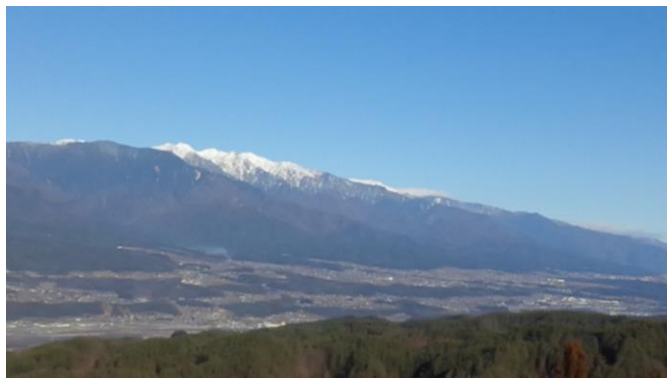
質問 長野県地域発元気づくり支援金で採択されたプロジェクトについて。完了後の課題、一貫したテーマなどがあれば伺いたい。

答 村や区が事業主体となり、一貫したテーマがあるわけではない。その時々で必要な事業を県の支援を頂きながら事業を行っている。

質問：長野県地域発元気づくり支援金に、今年度はフルーツビール「桃の誘惑」の開発、「蝶鮫^{ちようさめ}プロジェクト」などが応募され、採択された。長野県地域発元気づくり支援金とは、「豊かさが実感でき、活力あふれる輝く地域づくりを進めるため、市町村や公共の団体が住民とともに、自らの知恵と工夫により自主的、主体的に取り組む地域の元気を生み出すモデル的で発展性のある事業」に対して、支援金を交付するとされている。

支援金の採択事業は各課によるが、最近採択されたプロジェクトも含め、既に取り組んだいくつかの事業について、事業主体や目的、内容などの選択方法、事業効果並び、完了後の課題、を伺いたい。一貫したテーマなどがあれば伺いたい。

産業建設課長：事業主体は、行政はもちろん、NPO法人、地域の活性化団体、行政区や自治会でも事業主体になることが可能。これまで採択された内容は、**村関係**では、マレットゴルフ場や鬼面山の登山道、鬼面山頂上にある展望台の修繕整備、だんきゅう君の着ぐるみや獅子バスのラッピング、山ぶどうワインのPRとしてFM長野とタイアップしたシンポジウムなど。**区の関係**では堀越区のマツタケ観光の保湿冷蔵庫の設置。桜のライトアップ。**伴野区**では伴野区誌の編纂、DVDの作成。伴野小唄の復活普及継承事業。**河野区**では文化事業として神社の舞台の建て替え。獅子舞の太鼓や笛等の整備。**福島区**ではてっぺん公園のイベントや棚田の保全事業など。
一貫したテーマがあるわけではない。その時々で必要な事業を県の支援を頂きながら事業を行っている。



福島 てっぺん公園より 2020 1月2日 朝

質問 『村内の清流を活用し、蝶鮫の養殖を開始する・・・』**チョウザメ**プロジェクトで人の輪をさらに広げることも必要。支える企画や、それを切り口として、村の自然や景観を再発見するツアーや、情報交換をするしくみを企画しては？

答 チョウザメの学習会は検討したい。自然に関する企画はリーダー必要。強い思いをお持ちの方々がご相談にいただければ、プロジェクトの企画に対して応援したい。

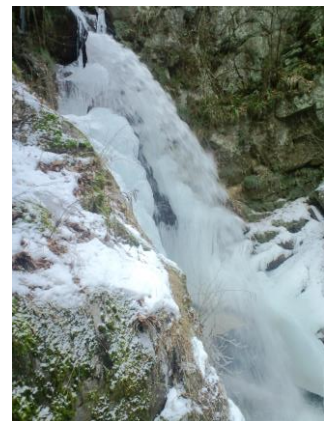
質問：今年蝶鮫プロジェクトが採択され、稚魚の導入や、来年2月の蝶鮫料理コンテストや試食会があると聞いている。とよおかまつりで蝶鮫料理の試食販売などでPRされ、プロジェクト採択前にそれに対する安藤さんの意欲は並々ならぬものを感じる。

南信州 蝶鮫養殖・振興プロジェクトの資料によると、『**村内の清流を活用し、蝶鮫の養殖を開始するとともに、蝶鮫料理の開発・振興を行い**』とあります。養殖から食用魚肉の提供・調理販売と、これから息の長いプロジェクトになります。

一方、半分は一般財源から支援している。村と住民が共同して作り上げるプロジェクトの人の輪をさらに広げることも必要ではないか。

例えば、初めて蝶鮫^{ちょうざめ}という名を聞いた時にサメ？と思う。「なぜチョウザメなのか？」～みんなで学ぶ海なし県で育てるチョウザメ学習会～とか、「チョウザメの里散歩で見えてくる村の自然」学習会とツアーなど、単に養殖→食肉の普及に留まらない、このプロジェクトを支える企画、それを切り口として、村の豊かな自然や景観を再発見するツアーや、情報交換をするしくみ、例えば『村のあちこち歩き隊』『あなたが気になる守りたい風景』などで一緒に歩けなくても、こんな所があるよ…ということを皆さんから情報を得る企画などをしてみてはいかがか。

産業建設課長：チョウザメを知る学習会といったようなものも、プロジェクトの中で検討させていただきたい。また、今提案いただきました、山歩きですとか、自然に関しては、誰か中心になるリーダーが必要。そういった強い思いをお持ちの方々がご相談にいただければ、プロジェクトの企画に対して応援したい。是非、今提案されたことなどを議員自らリーダーとしてやっていたいただければ、支援金の申請ですとか、村の方でも応援する。



壬生沢不動滝 厳冬

質問 ワーキングホリデーや体験学習を受け入れている民宿や農家に訪れるのは村外の方だが、体験学習でこの村の『当たり前』を再確認できる機会を、**村内の子どもたちにこそ、必要ではないか。**

答 非常に大事なご指摘を頂いたと思う。教育委員会では4年生が慈恵園での宿泊をおこなっており、非常に高く評価されている。提案のようなことを学校やPTA、社会教育も含め、公民館等で、研究していきたい。

質問：今年の2月でしたか3月に行われた、若い世代のリニアシンポジウムのグループワークショップでは、中学生は豊丘の自然が壊される。自然を守りたいという発言が多かった、と聞く。一方で、『でも自分たちは豊丘の自然ってよくわからない』という声も聞いた。

ワーキングホリデーや体験学習を受け入れている民宿や農家に訪れるのは村外の方だが、こういった体験学習でこの村の『当たり前』を再確認できる機会を、**村内の子どもたちにこそ、必要ではないか。**

公民館報 6月号に掲載して頂いた私の抱負の中に『都会とは違う時間の流れ方と空間が豊丘にはある。村外からの観光振興と同時に、この村の本来的に備わった、『当たり前』を再確認し、**故郷に誇りを持つこと**。住民が地域に関心を持つことが大切。』と述べた。こどもたちの声を聞いて、そういう事かと思う。

一つの提案として、小学校のクラス単位で行う親子レクなどの会場に山間部の集会所やグラウンドを利用してもらってみたいはいかがか。実際に壬生沢福島拠点施設とパノラマ公園において、草餅づくりとドッチビーを行ったことがある。自然に触れ合うところまでは至らなかったが、街中の子どもたちが山間地の空間で、皆で一日過ごすことはそれだけでも違うと思う。

自然体験を実践している方からは、もっと更に発展するべき、という声もある。

可能であれば、地域の方や山間部の民宿のお手伝いもいただき、交流も合わせて、**親子レク**を通してもっと幅の広い、親子でより豊かな発見ができるかもしれない。

教育長：私自身も拠点施設のある壬生沢分校で育ったところ。上の段に行きますと下の段と違う景色やら生活様式があり、私自身も豊丘で育って、どっぷり豊丘の中で今の私があるように思います。非常に大事なご指摘を頂いたと思う。教育委員会では4年生が慈恵園を使わせていただきながら、宿泊をおこなっており、その評価非常に高く、事業の成果を実感している。

議員提案のようなことを学校の方にも話しながら、単に学校でできる事ではありませんので、PTAのご協力を頂きながら、さらには社会教育も含め、公民館等で、できるかどうかとも研究していきたい。